

2021年度及び2022年度卒業生のfGPA推移と国家試験合格状況

関西医療大学 IR推進室

2020年春以降の新型コロナウイルス感染症の拡大による授業形態の変更やキャンパス内における感染対策上の様々な制約は、本学学生の大学生活と学修行動に対して多方面の影響を及ぼしたと考えられる。その間、本学の教職員は教育の質の低下を防ぐため様々な工夫を凝らした学修支援と指導を継続し、学生も不利な環境の中でより良い学修成果を身につけるための努力を重ねてきた。IR推進室では、このコロナ禍の期間に在籍した学生の学修成果を検証するため、学生の成績評価基準となるfunctional GPA (fGPA)の推移を学科、学年ごとに調べ、卒業時に受験した医療系国家試験合格率と並記した資料を作成した。調査対象とした学生は、コロナ禍のため本学で遠隔授業の導入を開始した2020年度以降、2年間(3年次と4年次)にわたり影響を受けた2021年度卒業生及び3年間(2年次から4年次)の影響を受けた2022年度卒業生の2世代とした。

その結果、各学科・世代ともコロナ禍発生以降のfGPAは低下することなく一定の幅の水準で維持又は年次進行で上昇していることが分かった。また、国家試験合格率に対するコロナ禍の影響は限定的であり、一部の学科では100%合格を達成するなどの成果も示され、様々な困難の中においても日々の努力を継続した本学学生の学修成果が示された。

